

## ◇ 會 告 ◇

### 【一】

奉安殿は昨年九月起工、中秋連日の降雨にて工事豫定以上に相遅れ次で嚴冬の期に入り一時中止致あり候。陽春再起工の豫定に相成居候。冬期工事中止の理由は該築造物が鐵筋コンクリート造なるに由り申候。

### 【二】

次回雜誌發行は七月の豫定に候。會員諸彦の蠶絲業に關する調査研究奮つて御寄稿有之度候。締切期日六月末日と御承知置被下度候。

### 【三】

會員諸彦の異動に就て出來得る限正確に御通知致す様注意致居候も調査漏又は誤記等も時には免れ難き場合なきに非ずと存候へば御心付の際は其旨御報願上候。

### 【四】

大正八年八月以降物故せられし會員は次の六氏に候。

滯 池深君(絲二) 原 正一郎君(絲七) 堀越 田治君(蠶五) 小守末吉君(選八)

堀場友市君(蠶八) 田中 忍君(蠶五)

本會は以上諸氏の家族に對し弔辭を呈し有志諸君よりの弔慰金を贈呈致置候。

## ◆本部 狀況

大正十年八月以降母校敎職員の異動は左の如くに候。

八月小澤大尉後任として伊王野鍊少佐就任、大正十一年二月池田書記三重高等農林學校書記に轉任、後任として前盛岡高等農林學校書記太田鐵五郎氏就任、同窓生としては養蠶部助手三輪氏入營の爲め十年十二月辭職せられ候。母校築造物としては製圖敎室(第一桑園中)が建築中に候。

## ◆同窓會 規則

第一條 本會は上田蠶絲専門學校同窓會と稱す

第二條 本會は上田蠶絲専門學校卒業生並に修業生を以て組織す

第三條 本會は母校との連絡を計り會員相互の親睦を厚うし併せて蠶絲業の改良發達を計るを以て目的とす

第四條 本會は本部を上田市に置く、但し必要に應じ支部を設くる事を得  
支部に關する規定は別に之を定む

第五條 本會は第三條の目的を達する爲左の事業を行ふ

一、總會の開設

二、刊行物の發行

三、講習、講話

四、其他必要と認めたる事業

第六條 本會に左の役員を置く

幹事長一名 副幹事長一名 幹事若干名

幹事長は會務を總理す、副幹事長は幹事長の指揮に従ひ幹事長事故ある時之に代る、幹事は幹事長を補佐し會務を處理す

第七條 幹事は總會に於て長野縣小縣郡及上田市在住の會員中より選任す、幹事長並副幹事長は幹事の互選によりて之を選任す

第八條 役員の任期は二ヶ年とす、但再選するを妨げず

第九條 本會は毎年三月總會を開く、但必要に應じ臨時總會を開く事を得

第十條 左の件は總會の決議を要す

一、規則の改正

二、基本金の處分

三、其他重要な事項

第十一條 總會の決議は多數決による、可否同數なる時は議長之を決す、總會の決議は會員四分の一以上の出席を要す、書面又は委任狀を以て其意見を表示するものは出席と看做す

第十二條 本會は會員より通常會費として毎年金貳圓を徴收す

第十三條 本會は其目的を遂行する爲必要と認めたる時は幹事會の決議を経て臨時會費を徴收する事を  
得

第十四條 本會に基本金を置く、基本金は通常會費の十分の一及其他の收入を以て之に充つ

基本金は幹事長之を保管す

第十五條 本會の會計年度は毎年四月一日に始り翌年三月卅一日に終る

會計報告は次年度の同窓會報誌上に登載す

### ◆上田蠶絲專門學校同窓會支部設置に關する規定

同窓會規則第四條第二項により支部に關する規定を定むる事左の如し。

第一條 支部の區域は道府縣を以てす、但必要に應じ區域の分合を行ふ事を得  
第二條 支部に左の役員を置く

支部長一名 支部幹事若干名

第三條 會員にして支部を設置したる時は遲滞なく左の事項を本部に通知する事

一、設置年月日

二、名 稱

三、區域並事務所の位置

四、會員住所氏名

五、役員氏名

六、規 則

七、事業の種類

第四條 第三條第二號より第七號に至る事項に變更ありたる場合には遲滞なく本部に通知す可きものとす

第五條 支部は毎年三月卅一日迄に該年度の事績の概要を本部に報告すべきものとす

◆物故同窓生弔慰金會計報告

故蒲池深君弔慰金

金參圓宛	大箸政平	甲斐	致	高尾	歲次	木脇	寅熊
金貳圓宛	橋本景吉	酒井	五十三	松岡	道也	後藤	富次郎
金壹圓宛	竹內眞喜雄	加美	好男	矢田部	忠吉	工藤	一二三
	高田茂十郎	見波	忍	堀江	尚	藤澤	文雄
	長見公祐	久保田	正樹	岸	益吉	藤澤	紀元次
	遠藤文平	久保田	嘉一郎	岸	勝彌	向山	武夫
	塩見喜六	坂田	榮雄	朝倉	昇	吉澤	武夫
	伊藤柳作	小川	保	唐澤	正平	高畠	秀男
	穂坂小牧	秋山	俊興	佐々木	峰二	須田	圭二
	鈴木誠一	飯島	正胤	中澤	勝也	齋藤	格次
	竹内五之助						
	林貞三						

金五拾錢宛

計金參拾七圓五拾錢也

內譯

參拾錢也

送金手數料及書留料

參拾七圓貳拾錢也

遺族送金

故原正一郎君弔慰金

金參圓五拾錢宛

關川宗男

金參圓宛  
金貳圓宛

河野 蕃 本谷 良雄  
戶田 耕三 石塚 浪之助  
福島 新吉  
甲田 勝衛 的場 小六

金壹圓五拾錢宛  
金壹圓宛

渡邊 康輔 清水 輝雄 蟹江 優 鍵谷 傳  
山本 岩三郎 可兒 良夫 鈴木 廉三 石川 健丸  
岡 光郎 小林 義夫 國枝 盛 式田 定千代

金五拾錢宛

荻野 俊一 中村 龜四郎 加藤 善一 富田 乙松  
石坂 虎次郎 日比野 一夫 田附 由次郎 近藤 五代次  
齋藤 菊雄 齋藤 舍 塩原 克巳 天野 武良

金參拾錢宛

堀場 友市 堀田 啓咨 神原 春彦 石原 石司  
小守 末吉 大根田 丑一郎 富田 庄三郎 北本 重郎  
根岸 丑之輔 柴田 汎一 竹內 梅次郎 小林 修二  
間宮 成吉 仲田 太郎 久保田 昌人 小野 修二

計金五拾六圓六拾錢也

內譯

金四拾錢也

送金手數料及書留料

金五拾六圓貳拾錢也

遺族送金

故堀越田治君弔慰金

金五圓宛

金參圓宛

金貳圓宛

金壹圓宛

金七拾錢宛  
金五拾錢宛

計金六拾八圓貳拾錢也

古東幹太	兒玉慶治	佐藤久太郎	長瀬深見	貞包新	荊田恭一	加美好男	友重誠三	影浦年丸	峯村壽命	日比野一夫	佐藤金六	栗原章	石坂虎次郎	松野正一	尾見祐八	白澤幹	田附山次郎
松村季美	峯村眞一郎	村田眞一	齋藤菊雄	鹽原克巳	土岡光郎	吉野健吉	小野正雄	齋藤繁太郎	後藤宰一	原田卯一郎	田附卯一郎	丸山武夫	樋口琢磨	浦山藤吉	岸野潤一	皆川二郎	雜賀喜久三
林	安孫子文彌	曾山直高	吉田榮治	中澤勝也	中根眞一	竹內清	陶山專三	弓田弘	荒牧伊勢美	片岡清次郎	小山久一	中島靜太郎	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平
平澤勝	丹生谷清六	渡部亘	久保田昌人	櫻井吉利	佐藤尙雄	吉澤武夫	糟谷遠三樓	式田定千代	天田晉三郎	中島靜太郎	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平	伊藤喜平

內譯

四拾五錢也

爲替料及送料

六拾五圓七拾五錢

遺族送金

故小守末吉君弔慰金

金貳圓宛

菊池精一

齋藤鳳一

武田豐太郎

金壹圓五拾錢宛

荻野轍間

三好圭一

細川謹

日野光平

金壹圓宛

岩瀬美夫

石原石司

中島茂司

大塚重藏

根岸丑之輔

永田小林

小宮山太助

勅使河原保

前田節男

三輪杉門

柴田汜一

佐藤久太郎

柳原春彦

北本重郎

土岡光郎

丹生谷清六

金五拾錢宛

坂田正贊

安孫子文彌

兒玉慶次

丹生谷清六

峯村眞一郎

安孫子文彌

兒玉慶次

丹生谷清六

金參拾錢宛

堀田啓咨

安孫子文彌

兒玉慶次

丹生谷清六

計金貳拾七圓八拾錢也

內譯

參拾錢

爲替及書留料

貳拾七圓五拾錢

遺族送金

【附記】

堀場友市氏、及田中忍氏に對する弔慰金の報告は次號會誌上に記載致可く候。